

企業探訪

TOP INTERVIEW

株式会社JWAY

代表取締役会長 左子 幸治 氏
代表取締役社長 中言 裕之 氏



株式会社JWAY
代表取締役会長 左子 幸治 氏

株式会社筑波銀行
日立支店長 岡部 和幸

株式会社JWAY
代表取締役社長 中言 裕之 氏

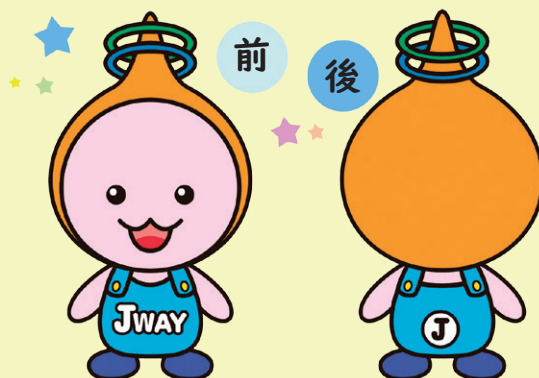
筑波総研株式会社
代表取締役社長 木村 伊知郎

株式会社JWAY
管理本部 総務部長 瓦葺 一也 氏

地元ならではの地域情報と 安心を提供し続けるケーブルテレビ

本 社：茨城県日立市幸町1-19-1
営 業 所：茨城県ひたちなか市笹野町3-2-5
ひたちなかビル2F
設 立：2004年5月
従業員数：80名（2022年5月末現在）
事業概要：放送事業、通信事業 他
サービス提供エリア：
日立市、東海村、ひたちなか市一部、
城里町一部

インタビュー日：2022年9月16日
〔聞き手：筑波総研(株) 代表取締役社長 木村伊知郎〕
取引支店：(株)筑波銀行 日立支店



JWAY公式マスコット ジェイ坊 (イラスト提供：(株)JWAY)

唯一地域のテレビ局がない茨城県で 情報格差是正と地域活性化のために誕生

貴社の設立の経緯についてお聞かせください。

ご存知のとおり、茨城県は全国で唯一地域のテレビ局がない地域であり、地域の情報をリアルタイムに伝える手段が限られています。加えて、日立市では市街地と山間部で通信環境に大きな差があり、市街地で利用できるサービスが山間部では利用できませんでした。そこで、これらの情報格差の解消と地域の活性化を目的に、2004年5月、地域企業のご協力のもと、当社は日立市の第三セクターとして開局し、翌年3月にサービスを開始しました。ケーブルテレビは1本のケーブルでテレビ、インターネット、電話の3つのサービスを一元的に提供できるため、加入者は様々な情報を得ることができます。そのため、当社は開局当初から、地域の皆様より大きな期待をお寄せいただきました。

日立市全世帯の40%超が加入 「地域になくてはならない会社」へ

地域の皆様のご期待にお応えすべく、開局から1年というわずかな期間に、日立市内全域を整備するための性急な設備投資を行ったことなどで、一時期非常に苦しい状況に追い込まれました。しかし、行政（日立市）や筑波銀行、地域の皆様から多大なご支援をいただいたこと、現相談役の大西、現会長の左子が社長の時代に社員が一丸となって業績改善に努めたことで苦難を乗り越えました。その後は日立市全世帯の40%を超える皆さまにご加入いただくなど、安定した経営を続けています。

将来の人口減少や少子高齢化の中でも当社の役割をしっかりと果たしていくため、ここ数年はエリア拡大に取り組み、経営基盤の強化に努めています。発足の地である日立市だけでなく、東海村、城里町の一部（旧七会村）へも進出し、本年7月にはひたちなか市（旧勝田市エリア）でも開局しました。また、地域情報発信力の強化のため、グループ会社でコミュニティーFMの「えふえむひたち」を吸収合併しました。現在は、二度と困難に陥らぬよう「投資計画に即した着実な営業活動」を肝に銘じながら、経営理念「地域に役立つ会社」「地域になくてはならない会社」を念頭に、地元ならではの地域情報と安心をご提供しています。



左子会長



これまでの歴史を語る中言社長



瓦葺総務部長



取材時の様子

防災情報などを通じて 地域の安心・安全に寄与する

ケーブルテレビの役割や特徴について教えてください。

当社のケーブルテレビは、隣接する県域チャンネルやBS放送、専門チャンネルの放送に加え、2つの視点から地域に特化した番組を独自に制作・放送しており、これは特徴であるとともに、役割でもありと考えています。

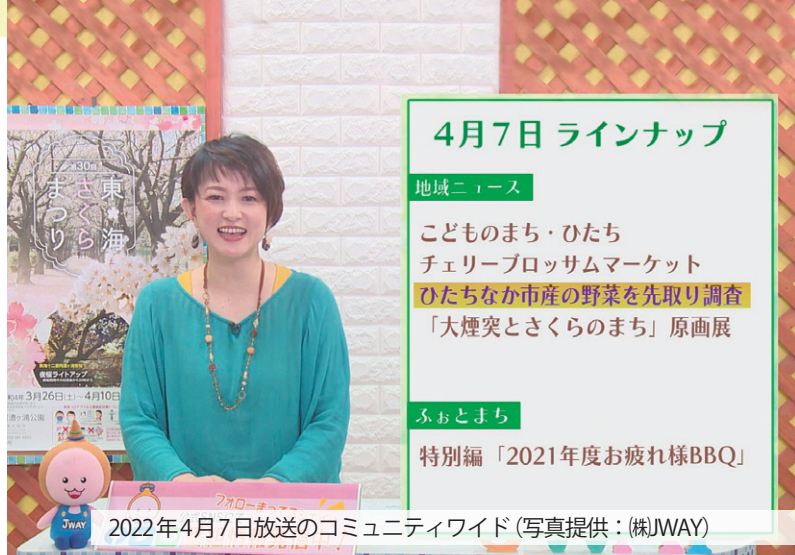
まず、1つ目の視点は「防災情報などを通じて地域の安心・安全に寄与する」ことです。当社の防災情報の原点は東日本大震災です。当時、テレビから伝わる情報は被害の大きかった他県の情報が中心で、地元の情報を入手することは困難でした。そこで当社は地元自治体と連携し、約1か月間、地域情報のチャンネル内容を全て震災特番に切り替え、市内・近隣の被害状況や復旧情報をお伝えすることに専念しました。

震災後に行ったアンケートから、加入者の9割以上の方が当社の震災特番をご視聴いただいていたことがわかり、地域の防災情報の発信がいかに重要であるかを再認識しました。その後、データ放送やSNSを使った情報発信の強化につなげています。

身近な情報の発信のほか、 地域の良さを市外・県外へ発信

もう1つは「身近な情報の発信」です。当社の番組に加え、茨城県内の5つのケーブルテレビ局が連携して設立した「茨城県ケーブルテレビ連絡協議会」を通し、情報番組やスポーツ、大規模イベントの生中継などを共同制作する取り組みもあります。今後各局との連携をさらに強化することで、将来的には県域のテレビ局がなくても、疑似県域テレビ的な活動ができるようになると考えています。

また、全国のケーブルテレビ網を通じて番組を紹介し合う仕組みもあり、全国約35局で茨城県の食材を使った料理番組を放送していただいています。茨城県は毎年「地域魅力度ランキング」の下位争いで話題になることから、地元の皆様にだけでなく、地域の魅力を県内外に発信することも当社の重要な役割であると認識しています。



週替わりで様々な地域情報をお届けする

オリジナル番組を教えてください。

当社が制作する番組の1つに地域ニュース「コミュニティワイド」があり、イベントやサークル活動を中心に地域の明るい話題をお伝えしています。また、週替わりで様々なコーナーがあります。今後、地区による取り組みをさらにきめ細かく紹介できるように、現在調整を進めています。

週替わりコーナーの例

- ・地域のお店を紹介する番組「まるまる散歩」
- ・地域内ツーリズムを紹介する「押忍！ オスペンギン」
- ・日立市出身の神保シェフによる茨城の食材を使った料理番組「神保シェフと茨城をたべよう」
- ・サービスエリア内を学区ごとに訪問する「ふおとまち あなたと一期一笑」
- ・小中学校の給食時間の様子や学校の食育活動などを紹介する「給食大好き」
- ・水戸ホーリーホックの協力で制作する「水戸ホーリーホックに聞く！」

また、日立市では開局以来行政と連携した番組を制作・放送しており、市の施策や住民向け制度などをわかりやすくお伝えするとともに、議会中継なども行っています。



神保シェフと茨城をたべよう (写真提供：(株)JWAY)

身近に取材できることが ケーブルテレビの大きな魅力

番組制作は手間がかかるとは思いますが、制作体制についてお聞かせください。

地域の情報番組を制作する場合、当社では取材・カメラでの撮影から原稿の作成、番組として完成させるところまで1人で行っています。1人で現場に飛び込み撮影ができるのは、それだけ地域の皆様に身近に取材できるということでもあり、ケーブルテレビの魅力の1つとなっています。

イベントなどの中継はマルチアングルで撮影することから5~6人に対応しています。特番では特に高校野球や社会人野球の中継が視聴者の関心を集めていますが、このような大会は複数の球場で行われるため、メイン球場を決めてカメラ5台の体制でキー局の野球中継と同様に実況・解説もつけて放送します。

高校野球はサービスエリア外の球場で 行われる試合も放送

当社のサービスエリアは強豪チームが所在する地域であり野球好きが多いため、茨城県内の高校野球に関しては、サービスエリア外の球場まで追いかけて放送するという非常に珍しい取り組みを行っています。制作スタッフの人数の都合上、さすがに全試合を中継することはできませんが、スタッフがそれぞれの球場にカメラ1台で入り、中継回線がつながる球場はリアルタイムで放送し、中継回線がつかない球場については収録をして当日の夜に放送しています。

また、茨城県ケーブルテレビ連絡協議会所属の各局が連携し、各地区で開催されている試合を各局で放送し合ったり、ケーブル局のないエリアに各局が人を出し合って共同制作したりする取り組みも行っています。最近では認知度が向上し、OBOGの皆様をはじめ、対戦相手の保護者からもお問合せいただくなど反響も大きくなっているため、今後も続けていきたいと考えています。

また、特番では、エリア内の幼稚園や保育園に通う年長児が将来の夢を語る「なれたらいいな なりたいな」をはじめ、地域のイベントやお祭りの中継、発表会特集などがあり、視聴者の皆様から多くの反響をいただいています。



都市対抗野球中継の様子
(写真提供：(株)JWAY)



中継車両内 (写真提供：(株)JWAY)

ケーブルテレビの便利なサービス

ケーブルテレビのサービスを教えてください。

ケーブルテレビの仕組みは約60年前、山間部など映りが悪い地域を共有のアンテナから各戸にケーブルを繋いでカバーしようという難視聴対策として誕生しました。

その後、各局から各加入者宅へケーブルを敷設して有料テレビ放送を提供する事業者が現れ、さらに現在ではケーブルテレビ局の多くが、その回線を使ってテレビ、インターネット、電話の3つのサービスを提供しています。

当社も開局以降、1つの回線でテレビ、インターネット、電話の3つのサービスを提供していますが、社会的な通信環境の変化やスマートフォンなどモバイル端末の普及による「通信と放送の融合」が大きく進んでいることから、現在は、テレビとインターネットのサービスをパッケージ化して利便性を高めた「スマートテレビ」をサービスの主軸としながら、電気サービスも行っています。



FMひたち (写真提供：(株)JWAY)

録画した番組をスマホで視聴できる スマートテレビサービス

スマートテレビサービスについて詳しく教えてください。

通信機能をもったチューナー（Set Top Box）をご自宅に設置させていただくことで、テレビ番組をご視聴いただけるほか、2番組を録画しながら別のチャンネルをご視聴いただく、録画した番組をスマートフォンやタブレットに移してお楽しみいただくことなどが可能になります。

スマートテレビサービスの機能例

- ①トリプルチューナーで2番組を同時録画中でもテレビを視聴することができる
- ②録画した番組を他の部屋で視聴することができる
- ③録画した番組をアプリでスマホやタブレットなどでも視聴できる
- ④チューナーを接続したテレビの大画面で YouTube を視聴できる
- ⑤外出先から録画予約ができる

ライフスタイルに合わせて コンテンツを楽しめる

テレビの大画面でYouTubeをご覧いただくことも可能です。スマホの普及からYouTubeをご覧になる方が増えていますが、多くの方はWi-Fiのあるご自宅でご覧になるようです。せっかくご自宅でご覧になるのであれば、テレビの大画面を使ってお楽しみいただきたいと思っています。スマートテレビサービスは、様々なライフスタイルに合わせてコンテンツをお楽しみいただくことのできるサービスです。そのため、既にテレビのサービスを単体でご契約いただいているお客様も、スマートテレビサービスへ切り替える方が増えています。



お客様へのサービス説明の様子（写真提供：(株)JWAY）



サポートの様子（写真提供：(株)JWAY）

加入者の困ったを無料で解決 電話・訪問・リモートのJWAY安心サポート

設定が苦手なお客様への対応はどのようにされていますか。

コールセンターと連動した無料訪問サポートで解決します。コールセンター10人、訪問担当10人の合計20人のスタッフが身近な相談相手となり、電話、リモート、訪問などの方法で、サービスの提供から、パソコンなどの設定、トラブル診断、スマートフォンの使い方までワンストップで皆様をサポートしており、訪問件数は毎月約1,000件にのびます。そのため、ネット環境に詳しくない方、ご高齢の方でも安心してご利用いただけます。遠隔地にお住まいのご子息から、「JWAYさんがいるから安心して実家のインターネット環境を任せられるよ」といったお声をいただいたときなど、大変嬉しく感じています。

そのほか、加入者向けのサービスはどのようなものがありますか。

番組で紹介したお店やレシピ、取材の様子を紹介するコミュニティ番組とFMのコラボ誌の発刊、地



JWAYカード（写真提供：(株)JWAY）

域のお店にご協力いただき実施しているJWAYカード提供（利用者が特典を受ける代わりに当社がお店をPR）など、様々なサービスがあります。

将来的なサービスの拡張に備え 地域無線免許の取得へ

今後の展望についてお聞かせください。

ケーブルテレビは、これまでその名の通り有線でつなぐ事業展開でしたが、5Gサービスを含めた将来的なサービスの拡張に備えて、当社は地域無線免許の取得を進めており、既に日立市では免許を取得しました。その他のエリアでも順次取得を進めていきます。

ケーブルテレビだからできること 変化する社会と一人ひとりをつなぐ

激変する社会情勢を踏まえたSDGsの取り組みや新型コロナウイルス感染症への対応を契機に生活様式の変容が進み、地域DXへの取り組みが重要になっています。こうしたなか、当社が所属する日本ケーブルテレビ連盟でも持続可能な地域づくりへの貢献が重要であると「2030ケーブルビジョン」が策定され、「社会」「生活」「テクノロジーの変化」に対応して地域社会や住民の皆様のために、地域で役に立ち続ける企業であるよう「放送」「通信」「地域コンテンツ」「新たな事業」に対応していくとの指標が示されました。

地域社会や住民の皆様のお役に立ち続けるためには、アナログとデジタルをつなぐ役目をしっかりと全うすることが重要だと考えています。コールセンターへいただくお問合せ内容をうかがうと、デジタルの利便性を享受するための、様々な設定や利用方法にご苦労される方が多いと実感しています。

また、ケーブルテレビに求められる役割も、比較的同じような団体の皆様をつなぐというハブ的な役割から、複数の業種や業界をつなぐ役割へとシフトしています。そのため、当社は顔の見える地域企業として、当社の強みである「放送と通信」「有線と無線」「インフラとコンテンツ」の特性を最大限に活かし、“変化する社会と一人ひとりをつなぐ”という重要なミッションに取り組んでいきます。

このような当社の想いを1つの形にしようと、若手スタッフが中心となって「いつだって、つながってしよう。」というキャッチフレーズを考えてくれました。これからも、若いスタッフと一緒に変化を恐れず、様々なことに挑戦していきたいと考えています。



イベントでのPR活動（写真提供：(株)JWAY）

安定した事業を継続するために

今後も安定した事業を継続するためには、どのようなことが大事だと考えていますか。

事業を継続して安定したサービスを提供していくために、「より多くのお客様に」「よりよいサービスを」「より楽しく便利に」「より長く利用していただく」ことが一丁目一番地と認識しています。そのため、今後も地域の皆様にしっかりとファンになっていただけるような活動を継続しながら、加入者増加につなげていきたいと考えています。

常磐の中核企業を目指す

社名の意味について教えてください。

社名の「JWAY」の「J」には、「常磐」という意味が込められています。当社は、今後当面は、今年7月に開局したひたちなか市の全域整備を目標として進めていきますが、以降のエリア展開についても検討を進め、最終的には地域発展に寄与する常磐の中核企業として成長していきたいと考えています。引き続き皆様にはご支援・ご指導をお願いします。



社屋外観